

日本憎しで中国に走る韓国  
日米韓分断を狙う中国の思う壺に

2013.5.28 (火) [山下輝男](#)

## 1 靖国神社参拝等に対する中・韓の反発

靖国神社春の例大祭への安倍晋三首相の真榊奉納、閣僚の参拝、超党派国家議員の靖国神社参拝、安倍首相の国会での「英霊に尊崇の念を表するのは当たり前のことであり、閣僚がどんな脅かしにも屈しない自由は確保している」発言などに対して、パク・クネ政権発足後初めてとなる外相訪日キャンセルされ、駐韓別所日本大使を呼んで抗議し、さらには非礼にも、一部市民が首相を象った人形や日本国旗を燃やすなどの激しい抗議活動を行っている。

5月3日にインドで開かれる予定だった日中韓財務相・中央銀行総裁会議の開催が見送りになった。背景には、麻生太郎副総理兼財務相の靖国神社参拝や、尖閣諸島（沖縄県）をめぐる対立が背景にあると見られる。

同会議は、日中韓3カ国が新政権になって初のハイレベル会談になる見通しだった。この会議は、東南アジア諸国連合（ASEAN）プラス3（日中韓）財務相・中央銀行総裁会議に合わせ、ほぼ毎年開かれてきたものである。

国旗や一国の指導者を象った人形を燃やすなど、非常識国家北朝鮮や中国ならまだしも、少なくとも先進民主主義国家たらんとする国家ではあってはならないことだし、それらの行為を黙認するのは認可しているのと同義である。

気になるのは、韓国外相が日本訪問を中止しながらも訪中し、また大統領も5月には訪米した。中国も、北朝鮮対応をめぐり、日本との協議など全く考慮することもなく、米国と直接協議している。

中・韓が、日本抜きで米国と話し合い、日本を蚊帳の外に置こうとしているのではないかと懸念される。

今後も、このような中国や韓国による日本無視の外交が活発化しよう。そして、それは北朝鮮にとっても好ましい状況だろう。

今ここで、靖国神社参拝問題や歴史認識問題について、我が国の正当性を論じる積もりはないが、歴代政権の軟弱な対応に比して、安倍首相が正論を述べているのは心強い限りである。

## 2 中国の策謀に呑みこまれる韓国

尖閣諸島周辺海域で頻発している中国公船の領海侵犯や接続水域の航行、尖閣諸島は核心的利益との嘯きなど、日本への圧力を強めている中国は、日・米・韓の連携に楔を打ち込むために、日韓の連携を先ず打破せんとしているやに思える。

領土問題や歴史認識問題で韓国との連携を図り、さらには北朝鮮に対する強い影響力を武器に、中・韓の連携を強化しようとしている。

日・米・韓のトライアングルの弱点は、日韓関係の線の細さである。日米、米韓の絆の強さに比べれば、日韓の連携はいかにも脆弱だ。

中国の狙いは、明らかである。この弱点を衝いて、可能であれば分断することにある。

それができれば、中国の相対的地位は向上し、対米交渉力も著しく強化される。

貿易面での対中依存も増大する傾向にある。もちろん漁業問題など、中・韓間においてもいくつかの懸案はあるものの、中国はあえてそれらを表面化させることなく微笑外交により、韓国側の歓心を買おうとし、それに成功している。

真偽のほどは不明であるが、気になるニュースがある。2月下旬の韓国・東亜日報によると、韓国政府は「人文同盟」というキーワードを打ち出し、中国との関係強化に向け、中国側と調整中であると報じられた。

中国外交部もこれを歓迎、積極的に関心を示しており、関係強化に向け方針を模索中であるという。中国にとっては渡りに船だったろう。

人文同盟なるものの概念は不明であるが、次のように解されている。

「韓国と中国は、政治や経済、社会システムは大変違うが、長い歴史や文化、哲学を共有してきただけに、人文分野では通じるものが多い」ので、人文分野での両国間協力の拡大を期そうというようなものらしい。

人文同盟が、所謂戦略的パートナーシップのように是々非々に、あえて喧嘩することはないとの謂いの意味であるならば問題はないと思うが、かつての朝貢国に対する心情的なシンパシーにとどまるのであれば、問題は少ないが・・・。

米韓の価値同盟に対するアンチテーゼか？

いずれにしろ、このような話題が起こることが理解し難いことである。

中国の深謀遠慮にまんまと嵌っているとしか思えない。日本憎しに凝り固まっているがゆえに、全体像が見えていないのだろう。国家目標・国益の観点から、軽重緩急を考えれば、国家安全保障上、緊急性も重要度も高い北朝鮮への対応を優先させるべきだろう。

靖国や歴史認識問題は、北朝鮮問題に比べれば些末とまでは言わないが、明らかに優先順位は劣る（と思うのだが・・・）。

### 3 日・米・韓は、今何をなすべきか？

北朝鮮への対応が喫緊の課題であることは論をまたないだろう。北朝鮮の挑発はいつまで続くのか、核放棄を拒否している北朝鮮にどう対応するのか、あるいはいかなるグランドデザインを描いて行動するのかについて、緊密に情報を交換し、知恵を出し合って協力していかなければならない。（拙論「[今こそ、北朝鮮に対するグランド・デザインを描](#)

[け!](#)」小生のHP参照）

確かに北朝鮮に対しては中国が強い影響力を有している。が、それに完全に依拠してはならない。中国は言を左右にして、ぬらりくらりとして日米の望む通りには動いてくれない。

中国が真剣に北朝鮮問題を解決せざるを得なくなるような国際的圧力を構築することが重要であり、その要は日・米・韓の強固な連携である。日・米・韓が緊密に連携してこそ、中国も北朝鮮問題に真剣に取り組むことができ、北朝鮮に対して影響力を行使せざるを得ないのだ。

韓国にとって、日本との歴史認識問題と暴発するかもしれない北朝鮮問題のいずれが喫緊の課題なのか自明なはずである。

にもかかわらず、靖国参拝への反発を優先して大局を見失っている。靖国問題が彼らにとって看過し得ない懸案事項であるとしても、国家安全保障に係る問題に優先するとは到底考えられない。

相応の苦衷はあるにしても、国民に対しては強い表現で日本を非難したとしても、国際

的には日・米・韓の連携強化を優先させるべきだ。そのような冷静・冷徹な判断こそが一国の指導者の取るべき態度である。

歴史認識をめぐる安倍晋三首相の発言や閣僚の靖国神社参拝に対し、バラク・オバマ米政権が東アジア情勢の不安定化を招きかねないとして日本政府へ外交ルートで非公式に懸念を伝えたと伝えられる。

米国としては、日・米・韓の連携に亀裂が生じかねないことに懸念を表明したものであろう。それにしても、日本の対外広報は出遅れ感がある。米の有力紙が中韓寄りの論説を掲載するのが、その証左である。

米国が、韓国に対してどのような意思表示をしたのか不明だが、両国の互恵的な分野や人的交流分野では協力を続けるべく、共通の価値観を有する隣国同士として成熟した対日外交をするように求めたものと考えたい。

また、21世紀最大の国際的課題は、膨張する異形の大国中国にどう向き合うかである。

(参照:[動き始めた対中包囲網を確固たるものにせよ!](#))

このためにも、日・米・韓の連携が重要だ。日米、米韓の同盟はそれぞれに強固であるが、日・米・韓の三角形の最大の弱点は日韓関係である。

#### 4 大局を！

儒教的国家である韓国が面子にこだわるのは分からないではないが、面子にこだわり過ぎて大局を見失ってはならない。国民はいざ知らず、国家指導者たる者は常に大局を見つめて適切な破断をしてもらいたいものである。

国民の審判というか目を気にせざるを得ない民主主義国家では、ともすれば大衆迎合的な政治という陥穽に陥りやすい。新生韓国もそうなるのであろうか？

考えてみれば、民意なるものが絶対なのだろうか、激しい抗議行動を行う一部の人士の意見が民意なのか？

ノイジーマイノリティーもいるが、良識あるサイレントマジョリティーが圧倒的であると信じたい。国家百年の大計、冷厳な国際情勢を考慮すれば、耳当たりの良いことばかりを国民に言っておれないはずだ。時に、厳しい事実を国民に突き付けることもあり得る。

もっとも、日本においても、2009年の総選挙で、大衆迎合主義を振りかざした民主党が大勝したが、これも大衆迎合主義の陥穽に陥った顕著な例であろう。

日本は貴重な教訓を得たはずだが、それでもなお完全に大衆迎合主義の呪縛から解放されているわけではないと思える。この大衆迎合主義から容易に脱却できないというのは、民主主義制度に付随する宿痾なのかもしれない。

#### 5 日本はどう対応すべきか？

日・米・韓の強力な連携こそが東アジアの安全と平和の礎であることを大前提として、先ず何よりも米国との更なる同盟の強化をしなければならない。TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）もそのような視点でとらえるべきであり、集团的自衛権を巡る懸案を解決して日米安保のさらなる深化を期すべきであろう。

日米同盟を基礎とした日韓関係の改善に取り組む必要がある。信条的には春の例大祭に靖国神社参拝を望んでいたと思われる安倍首相が、あえて参拝しなかった配慮・誠意を理解すべきだ。

韓国が領有権を主張し、実効支配している竹島について国際司法裁判所への単独提訴を断念したのも、その一環である。このように、日本側は、韓国を追い詰めないようにいろいろと配慮している。

もちろん、歴史認識問題についても日本側としては言いたいことはあり過ぎる位ある。それをあえて殊更に取り上げないのは、韓国を追い詰めないための配慮である。高度な国際政治上の配慮を理解できないのだろうか？ それを日本側の譲歩、弱腰と誤解してはならない。

両国間の懸案事項は時間をかけて冷静な環境の中で話し合いにより解決を図っていくべきだ。

韓国は、喫緊の課題である北朝鮮への対応のために、日・米・韓の連携が極めて重要であることをしっかりと認識すべきである。日・米・韓の強固な連携があつてこそ、北朝鮮に影響力を有する中国を動かすことができるのだ。

そのための民間レベルを含めた努力が必要だろう。良識ある韓国人に訴えていくことが必要だ。必ずや理解して頂けるものと信じたい。

また、米国から、韓国に対して今何が重要であるかを働きかけることも必要だろう。日・米・韓の連携・調整がキーとなる。

## 6 終わりに

いずれにしても、韓国を中国寄りにさせないための、日米の戦略的な施策が必要だ。中国の分断策に乗ぜられやすい韓国に、その非を悟らせねばならない。

おこがましい言い方だが、最近の韓国の動きを見ていると、乗ぜられつつあるのではないかと危惧される。杞憂であることを祈ってやまない。

日米分断策として、靖国神社参拝問題を利用しているとの観測もある。繰り返すが、日・米・韓の強固な連携があつてこそ、北朝鮮問題も解決できるだろうし、アジア太平洋地域の平和と安全も確保できる。